



介護の現場から



介護の職に就く約10年前、元気だけが取り柄だと思っていた母が、生死に関わる大病を患いました。ICUで色んな管に繋がれた姿を見て、ただただ、ショックを受けた事を覚えています。医師から「後は本人の体力次第です」と告げられた時は、何とも言えぬ感情になりました。その日の夜は様々な思いが溢れてきました。「もっと〇〇しとけば良かった」など後悔ばかりしました。その後、何とか回復し、今は元気に過ごしてくれています。そして介護職に就き、何度か入居者の最期に関わりました。その時も「もっとこうしてあげればよかったかな?」「他に出来た事はなかったかな?」など考えます。家族もきっと10年前の私と同じように、寂しさや切なさや、後悔など様々な感情を抱えているだろうと思います。施設での様子などを伝えると「お世話になり有り難うございました」と、感謝の言葉をかけてくれます。介護職員は病気を治し、命を救う事は出来ませんが、介護職員だからこそ出来る事があると思います。入居者が安心・安全かつ楽しく過ごせるようにケアし、家族の後悔や寂しさなど少しでも緩和できるようにしたいと思いました。また、自分自身、今しかできない親孝行をもう少ししようと思いました。

(グループホーム共生の里管理者：T介護福祉士)

